



部活動と勉強を両立して賢明で立ち振る舞いの美しい女性を目指す



インターハイの予選でもある6月の県総合体育大会と中国大会へ向けて猛練習

「先輩の姿を真似て、高校生になると自然に中学生の面倒を見てくれるようになります」と、後輩からは目を細める。「コソコソとできる限りの努力をする、素直で真面目な生徒ばかり。個人、団体（5人）で演技する者だけが選手ではなく、部員全員が選手だというチーム意識を持っています。中学生で最低限の礼儀作法を身につけて、制服を着ている姿だったり、立ち振る舞いだったり、キレイな子になってほしいです」。また、進学校でもあるため「勉強と両立で大変と思いますが、たとえ結果が出なかったとしても一生懸命がんばること。古くさいと思われるかもしれませんが、その努力はきっとどこかで報われるのですから」と願う。

現役部員からのメッセージ

しみず ゆうか
清水 優花さん(部長・高2)

「小学校の時から新体操を習っていたのですが、受験で一時休んでいたのが女学院中学に入學したら入部したいと思っていました。目標に向かってチーム一丸となれるところがうれしいです。先輩が引退し、部長として大変なことがいっぱいありますが、いい雰囲気になってきていると思います。6月の中国大会で一番良い状態に持っていけるようにがんばりたいです」

ふじさわ ひよりさん(高2)

「部長の清水さんと参加した体験入部が楽しかったので入部を決めました。練習は想像以上にきつかったのですが、最初90度もできなかった開脚がいつの間にか180度開くようになりました。新体操は緊張しても失敗してもとにかく笑顔。観客席から演技前に『がんば』、演技ができたら『ナイス』と声が飛ぶので心強いです。演技をやり切った達成感が次のモチベーションです」

ふじわら りんか
藤原 凜香さん(チームリーダー・高2)

「幼稚園、小学校と習ってきたバシエの基礎を生かしたかったし、「競技」にもチャレンジしたかったので入部しました。観客の方にも感動を与えられる競技だと感じます。チームリーダーとしてどんな風に進めるか悩みましたが、自分を信じてやってきた事が正解だったんだと実感しています。6月の大会は中1からの集大成。悔いのないように納得のいく演技を披露したいです」

おくにし さくらこ
奥西 桜子さん(高2)

「中学に入學して校内を歩いていた時に、1年上の先輩に誘われて入部しました。髪をキュッとアップしていたのが良かったのかな(笑)。以前習っていたチアリーディングとは違って、靴を履かない状態でつま先を伸ばすことに苦労しました。演技するのも好きですが、他の人の演技を見ることも好きです。特に後輩の演技を見ていると成長しているのがよく分かってうれしいですね」

フープ(輪)、ボール(球)、クラブ(こん棒)、リボンなどを、使ってリズムカルに演技する新体操。オリンピックの種目の中でも女子の新体操は、その華麗で芸術性の高い演技で人気を集める。広島女学院中学高等学校の体育館の一角では、新体操部の部員たちが演技用のコスチューム、レオタードをまとって練習に励み、

新体操部の創部について、後輩に聞いてみる。部員数は中学生15名、高校生17名(引退した高3の4名含まず)。指導するのはコーチであり顧問の依藤子教諭と、この全日本学生選手権で初めて個人競技が行われたことがきっかけ、といわれています。女子校で、1977年から13回の出場を誇る。昨年出場した、インターハイが中止となり、出場が叶わなかった。いま、今年こそ、を合言葉に、6月の県総合体育大会で好成績を残し、インターハイ出場と練習に力を込める。



一昨年も団体競技の高校選抜としてインターハイに出場

笑顔を絶やさず、
インターハイ出場13回を果たす
真面目で賢く、立ち振る舞いの美しい女性目指して